【人吉市】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするＩＣＴ環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、第３次人吉市教育振興基本計画において『「確かな学力」の育成』としてＩＣＴ教育の推進を掲げている。

ＡＩなどの技術革新が進む新たな時代に対応するために学校教育も変化していく必要がある。そのために、ＩＣＴを基盤とした先端技術などを効果的に活用することで、子どもたちの力を最大限引き出し、公正に個別最適化された学びを実現させていくことが求められている。

本市教育委員会では、コンピュータや情報通信ネットワークなどの手段を活用するとともに、ＩＣＴ機器を効果的・積極的に活用したわかる授業づくりを推進し、情報モラルに関する指導の充実を図り、児童生徒が基礎的な知識・技術を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し解決していく生きる力の育成に努めている。

２．ＧＩＧＡ第１期の総括

　本市では、第１期の「ＧＩＧＡスクール構想の実現」に向けた児童生徒１人１台端末の整備事業（以下、第１期ＧＩＧＡ整備事業）と激甚災害に指定された令和２年７月豪雨の時期が重なったことにより、小学３年生以上の児童生徒を対象として整備を進めた。小学１・２年生については、グループワーク時に数人で１台を使用することでＩＣＴに触れる機会を作っている。通信ネットワーク基盤の整備については、完了しており、児童生徒が日常的に必要不可欠な「学びの道具」として学習支援ソフトやデジタル教科書などのデジタルツールを活用できる環境を構築した。

　第１期ＧＩＧＡ整備事業時に「Windows　OS」を導入したが、導入後４年が経過したことにより容量が逼迫し、アップデートができないという課題が浮上した。また、端末の故障や破損も増加傾向にあることから、実際に使用している教職員や児童生徒の意見も聞き入れ、適切な機器の更新が必須だと考える。

３．１人１台端末の利活用方策

（１）１人１台端末の積極的活用について

本市では、「１人１台端末の積極的活用」の取り組みとして、ＩＣＴ支援員による授業支援を行っている。令和５年度途中から２人に増員し、週に１回各学校を巡回し、機器の操作や校務支援システムの活用アドバイス等を行い教職員のＩＣＴを活用した指導力の向上を図っている。

また、令和６年度から校務支援システム「ミライム」を導入したことにより、データの共有や掲示板機能、学校の枠を飛び越えたメッセージのやりとり等を行うことができ、事務作業の効率化を図ることができた。すべての機能を活用できている状況にはないため、既存のソフトウェアと折り合いをつけながら、有効的な活用を進めていく必要がある。

（２）個別最適・協働的な学びの充実について

　　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に活かし、これまでにはできなかった学習活動を実施可能とするため、学習支援ソフトや授業支援クラウド、デジタル教科書等のソフトウェアの整備を行ってきた。特に学習支援ソフトは個別最適な学習をするための有効なソフトであり、児童生徒からも「自分のペースで学習をすることができる」という好意的な意見が伺えた。一方で、取組状況の把握が追い付かなかったり、自分のペースで学習できるからこそ難易度の高いものに挑戦しなかったりするなど、活用を進めたことによる課題も見受けられた。

　　学習支援ソフトを用いた有効的な児童生徒の個別最適化した学び、授業支援クラウドを用いた意見交換や共同編集をしながら自分の考えを形成する共同的な学びを取り入れることのできる環境の整備を目指す。

（３）学びの保障について

　　本市のある学校では、教室で行っている授業をオンライン配信し、学校に来ることができない児童生徒も同じように授業を受けることで学びの保障を図ったケースがある。

　　また、ネットワーク環境が整えられている家庭と整えられていない家庭とで家庭学習の差がつかないよう、学校のネットワークを利用し、学習支援ソフト内のドリルをダウンロードすることで家庭でも支障なく、学びを進めることのできる環境づくりをおこなっている。

　　今後も感染症や自然災害等、様々な状況で、児童生徒が学びを進めることのできない環境下に置かれる可能性もあるため、これらのデジタルツールを活用し、引き続き切れ目のない学びを保障していく。